

Accuphase

STEREO CONTROL CENTER

ステレオ・コントロール・センター

C-2110

取扱説明書



ご使用前に、この「取扱説明書」と別冊の「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。お読みになったあとは、お客様カードと引きかえにお届けいたします「品質保証書」と一緒に大切に保存してください。

このたびはアキュフェーズ製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

最高峰のオーディオ・コンポーネントを目指して完成されたアキュフェーズ製品は、個々のパーツの選択から製造工程、最終の出荷にいたるまで厳重なチェックを行い、その過程と結果の個々の履歴は、製品全体の品質保証に活かされています。このような品質管理から生まれた本機は、必ずやご満足いただけるものと思います。

末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

3年間の品質保証と保証書

当社製品の品質保証は3年間です。付属の「お客様カード」に必要事項を記入の上、お早めに(なるべく10日以内に)ご返送ください。「お客様カード」と引きかえに「品質保証書」をお届けいたします。

※「お客様カード」のご返送や「品質保証書」の発行について、詳しくは25ページをご参照ください。

※「品質保証書」はサービスサポート時に必要となりますので大切に保管をしてください。

製品に関するお問い合わせや異常が認められるときは、お求めの当社製品取扱店または当社品質保証部へ、直ちにご連絡ください。

尚、品質保証は日本国内のみ適用されます。

Accuphase warranty is valid only in Japan.

⚠マークについて

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人身事故の発生する可能性や製品に重大な損害を生じる恐れがあることを示しています。お客様への危害や、機器の損害を防止するため、表示の意味をご理解いただき、本製品を安全に正しくご使用ください。

⚠警告

この表示を無視して、誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う可能性があり、その危険を避けるための事項が示してあります。

⚠注意

この表示を無視して、誤った使い方をすると、人が軽度の傷害を負う可能性や製品に損害を生じる恐れがあり、その危険を避ける為の事項が示してあります。

付属品を確認します

- | | |
|-----------------------|---------------------------|
| ● 取扱説明書(本書) …………… 1冊 | ● AC電源コード(2m) …………… 1本 |
| ● 安全上のご注意 …………… 1冊 | ● プラグ付オーディオケーブル(1m) …… 1組 |
| ● お客様情報の取扱いについて …… 1枚 | ● 単4形乾電池 …………… 2個 |
| ● お客様カード …………… 1枚 | ● リモート・コマンダー RC-200 …… 1個 |
| ● 目隠しシール …………… 1枚 | |

目次

付属品を確認します	表紙裏頁
1. ⚠警告 安全上必ずお守りください / ⚠注意	2
⚠注意、お手入れ	3
2. 各部の名前	4, 5
フロントパネル, リアパネル	4
ディスプレイ部, リモート・コマンダー RC-200	5
3. 接続図	6
4. 各部の動作説明	7~10
5. ご使用方法	11~16
CDプレーヤーの演奏	11
チューナーで放送を聴く場合	11
別系統のプリアンプやAVアンプでの演奏	12
ヘッドフォンの使用方法	13
トーンコントロールの使用	14, 15
コンペンセーターの使用	15
レコーダーで録音・再生をする場合	
接続, 操作(再生, 録音, 電源 OFF時のチューナー録音)	16
6. リモート・コントロール	17
使用法 / 電池について	17
7. オプション・ボード	18~21
オプション・ボードの使用方法	
CDなどをデジタル入力で演奏	18
アナログ・ディスク(AD)の演奏	19, 20
オプション・ボードの種類	
ライン入力ボード LINE-10	20
デジタル入力ボード DAC-20	20
アナログ・ディスク入力ボード AD-20	20
オプション・ボードの取り付け方法	21
8. 保証特性	22
9. ブロック・ダイアグラム	23
10. 故障かな?と思われるときは	24
11. アフターサービスについて	25

1. 警告 安全上必ずお守りください

ご使用の前にこの『取扱説明書』と別冊の『安全上のご注意』を良くお読みの上、製品を安全にお使いください。

■ **電源は必ずAC(交流)100V、50Hz/60Hzを使用する。**

- AC100V(50Hz/60Hz)以外で使用すると、感電や火災の原因となります。

■ **電源コードは取り扱いを誤ると、感電や火災の原因となり危険です。**

- 付属の電源コード以外は絶対に使用しないでください。
- 付属の電源コードには、プラグ側に接地用アース線が付いています。感電防止のため、このアース線を接地用ターミナルに接続すると、より一層安全です。接地ターミナルの工事は、電気工事店にご相談ください。

■ **密閉されたラック等には絶対に設置しない。通風が悪いと機器の温度が上り、火災や故障の原因となります。**

■ **放熱のため製品の周辺は他の機器や壁等から充分間隔(10cm以上)をとる。**

■ **機器の上に水などの入った容器(花瓶、植木鉢、コップ、化粧品、薬品など)を置かない。**

■ **火災又は感電を防止するために、雨がかかる場所又は湿気のある場所では絶対使用しない。**

■ **トップ・プレートや底板は絶対にはずさない。内部に手などで触れると感電や故障の原因となり、大変危険です。**

■ **脚の交換は危険ですから行わない。取り付けネジが内部の部品に触れると、火災や感電、故障の原因になります。**

■ **次の場合には本体の電源スイッチを切り、必ず電源コードをコンセントから抜く。安全を確認後、当社製品取扱店または当社品質保証部にご連絡ください。**

- 内部に水や薬品などの液体がかかった場合。
- 内部に異物(燃えやすい物やヘアピン、釘、硬貨など)が入った場合。
- 故障や異常(発煙やにおいなど)と思われる場合。
- 落としたり、破損した場合。

※電源コードをコンセントから抜かないと、電源スイッチをOFFにただけでは、本機への電源供給が完全に遮断されません。そのまま使用すると火災や感電、故障の原因となります。

※万一の場合、電源コードをコンセントから容易に外せるように、コードの引き回しやコンセント周りの環境を整えてください。

⚠ 注意

■ 設置場所について。

次のような場所への設置はさけてください。

- 通風が悪く、湿気やほこりの多い場所
- 直射日光の当たるところ
- 暖房器具の近く
- 振動や傾斜のある不安定な場所

■ パワーアンプなど他の機器と直接重ねて使用しない。

■ 長期間使用しないときは、安全のために電源プラグをコンセントから抜く。

■ 電源スイッチのOFF直後、10秒以内に再びONしない。ノイズ発生などの原因となることがあります。

■ ヘッドフォンを端子から抜き差しするときは、スピーカーやヘッドフォンから急に大音量が出ないように必ず本機のボリュームを下げる。

ヘッドフォンを端子に差し込むとOUTPUTS端子の出力は切れます。また、出力が切れないように設定変更することが可能です。(13ページ参照)

■ 入・出力コードを接続する場合は、必ず各機器の電源を切る。

RCAタイプのピンプラグをジャックから抜き差しするときは、一瞬グラウンド側が浮いた状態になるため、大きなショック・ノイズを発生し、スピーカーを破損する原因となります。

■ 同一機種同士で、バランス用とアンバランス用ケーブルは同時に接続して使用しないでください。アースがループになって、ノイズを発生させる原因となります。

■ 入・出力端子などに接点保護剤などを絶対に使用しない。樹脂部が経年変化で破損して感電や故障の原因となることがあります。

■ オプションボードの増設。

- オプション・ボードを抜き差しする場合は、必ず電源を切る。
- オプション・ボード(DAC-20等)での演奏中に、光ファイバーや同軸ケーブルを外すとノイズの原因となる場合があります。
- 増設したオプションボードでレコードプレーヤーなどを操作するときは、必ず本機のボリュームを下げる。特に、カートリッジを上げたり、下げたりするときは、ボリュームを下げないとスピーカーを破損する原因となります。

■ 高能率スピーカーをご使用の場合、ボリュームを回転するときやバランス調整を行うときに、『AAVA方式の切替動作音』が聞こえる場合があります。この動作音は異常ではありません。

メモ

C-2110は、ボリューム・コントロールにAAVA(Accuphase Analog Vari-gain Amplifier)を搭載しています。AAVAは、従来の抵抗体による音量調整とは全く異なり、16段階に重み付けされた音楽信号を電流スイッチ回路で切り替え、それによって音楽信号の大きさを変える、画期的なボリューム・コントロール方式です。

実際の動作は **16** VOLUMEノブを回して音量位置を設定、電流スイッチのON/OFFによって増幅度(ゲイン)を決定します。

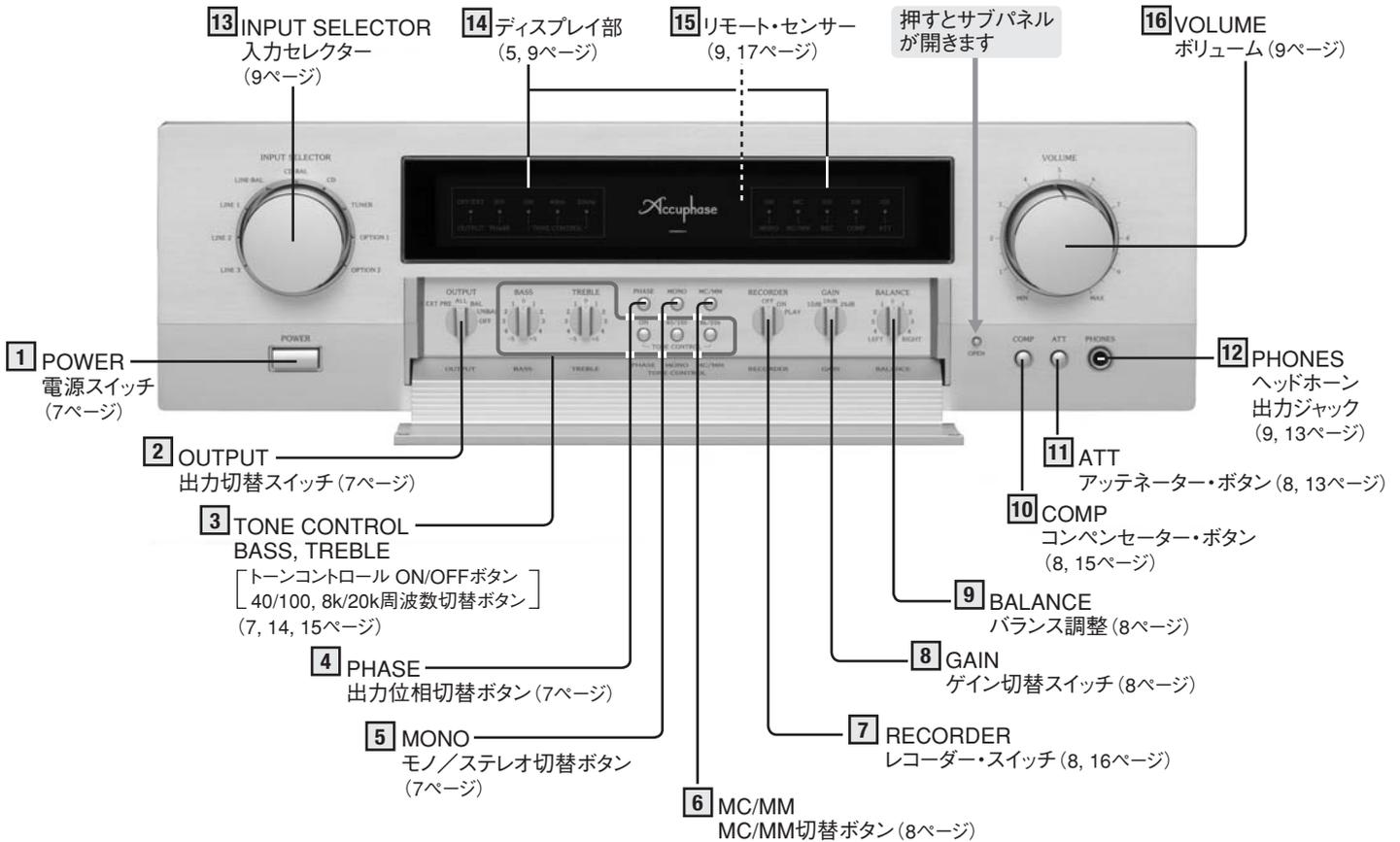
お手入れ

- お手入れの場合は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 本体のお手入れは、柔らかい布を使用してください。固く絞った布で水拭きし、その後乾いた布で拭いてください。ベンジン、シンナー、油、ワックス等を使用してお手入れは、表面を変色させたり、傷つけたりしますので使わないでください。
- フロントパネル面のガラス側面はコーティングされており、白い布で拭くと黒っぽく着色することがありますのでご注意ください。

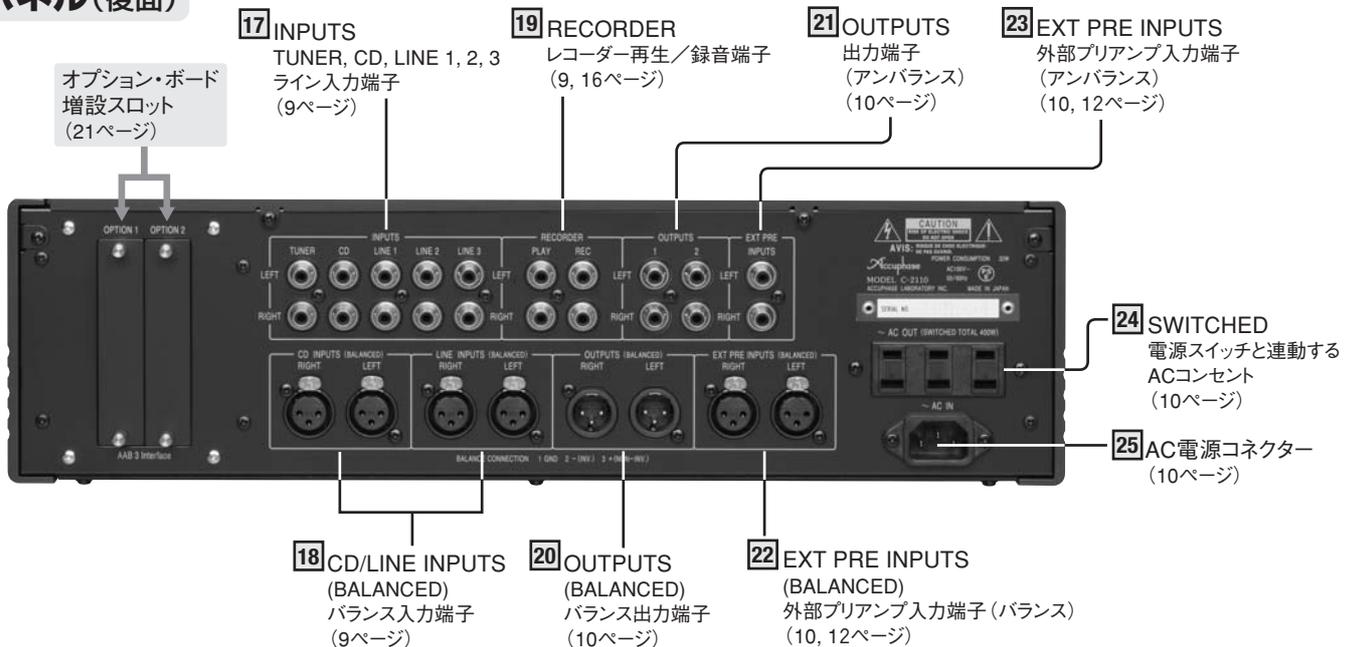
2. 各部の名前

詳しい説明は「各部の動作説明」等を参照してください。

フロントパネル(前面)

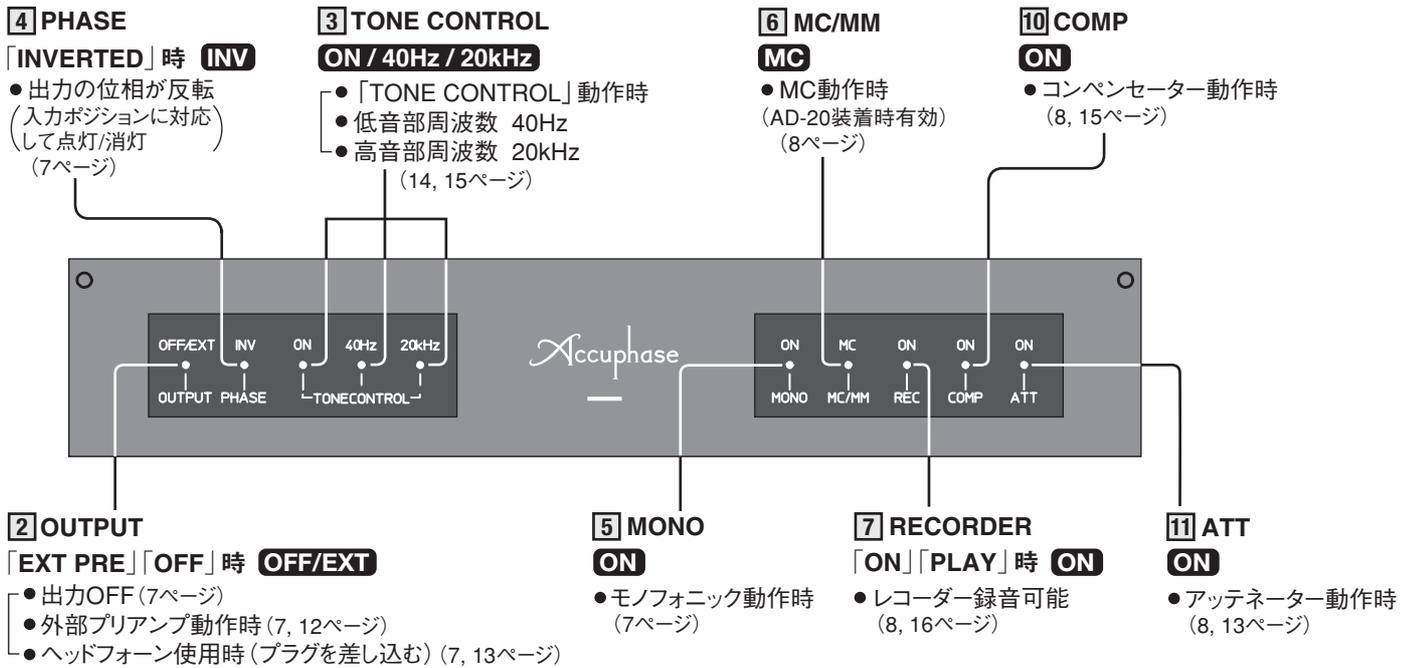


リアパネル(後面)

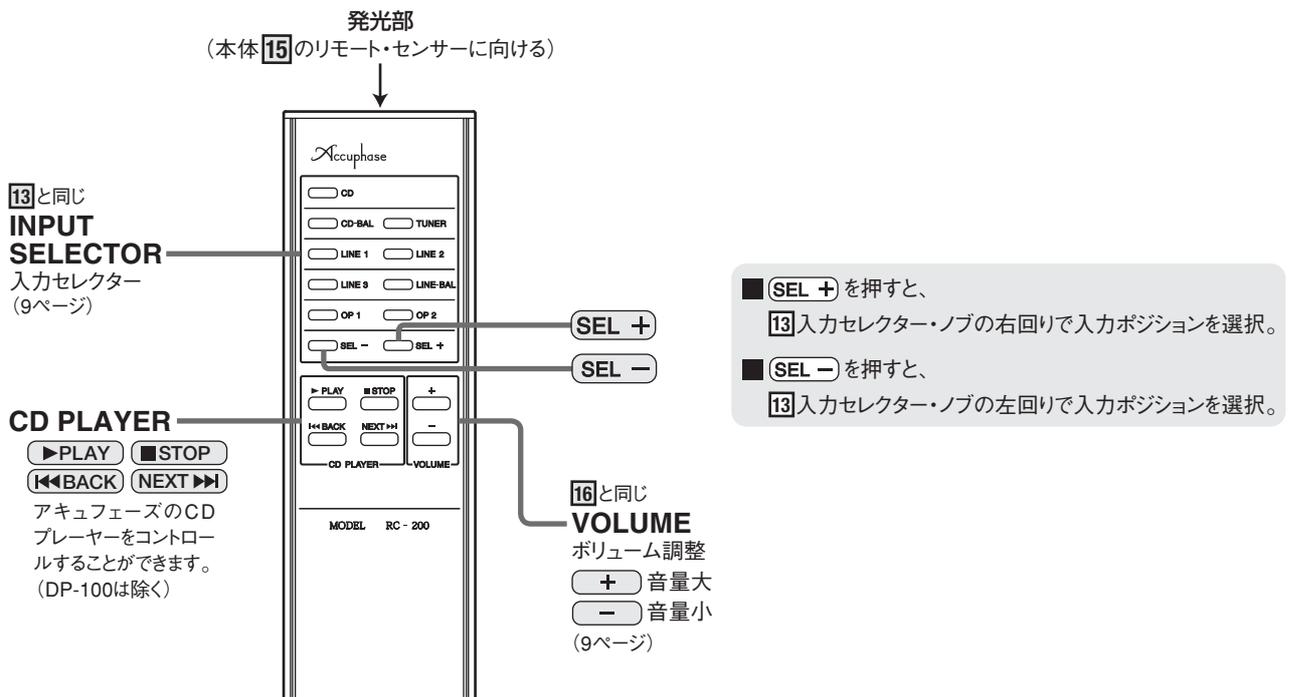


14 ディスプレイ部 イラストは説明用ですので、文字等は実際の表示と異なります。

各スイッチやボタンで選択した動作状態を、**LEDの点灯**により表示します。



リモート・コマンダー RC-200(付属) (使用方法は17ページ参照)



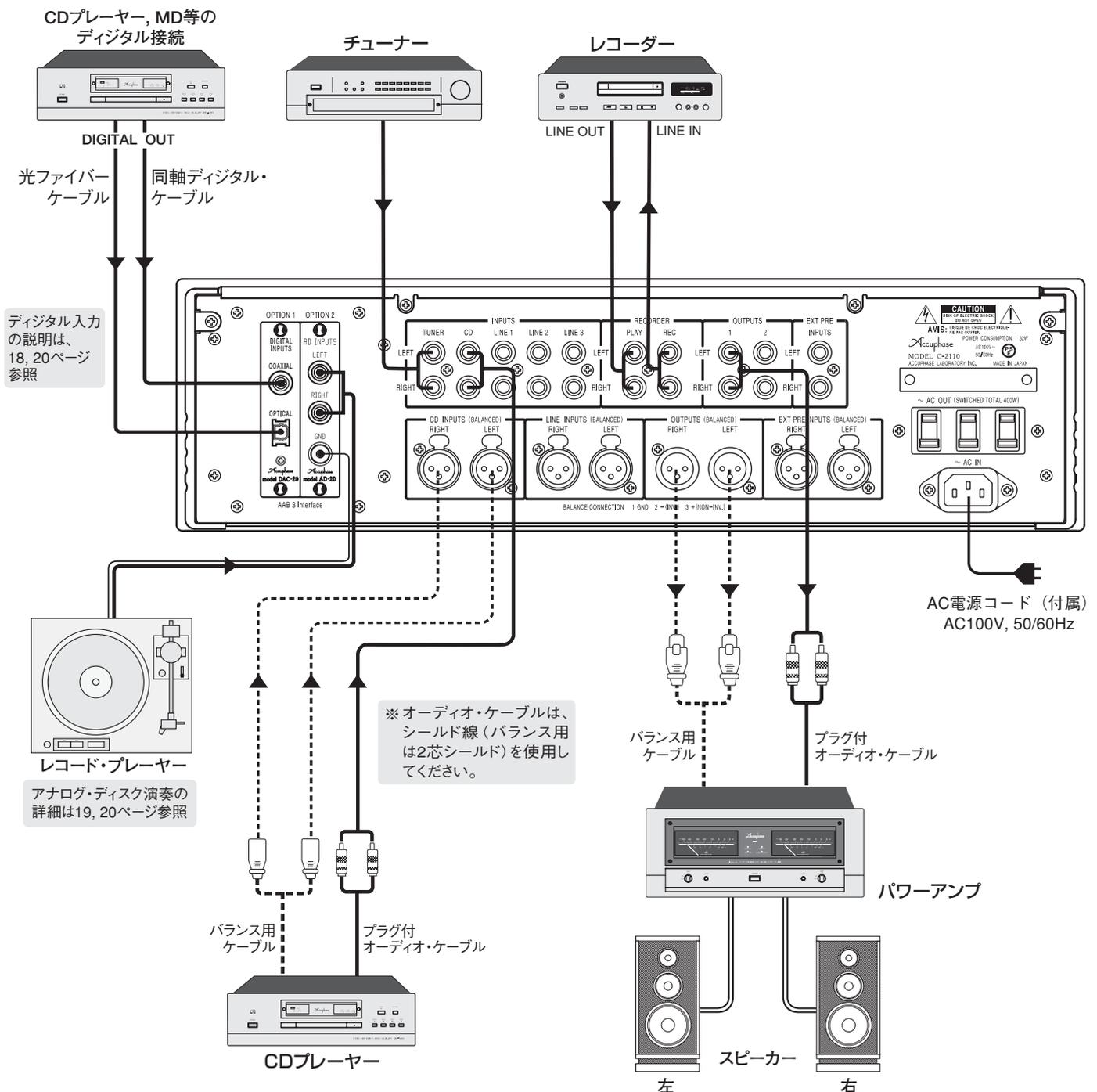
3. 接続図

注意：接続するときは、必ず各機器の電源を切る。

- 注意
- DAC-20とデジタル機器との接続は、同軸デジタル・ケーブルまたは光ファイバーを使用します。
 - アナログ入・出力の接続は、オーディオ・ケーブルを使用しLEFT(左)、RIGHT(右)を正しくつないでください。
 - 同一機器同士でバランス用とアンバランス用の両ケーブルを同時に接続して使用しないでください。アースがループになって、ノイズを発生させる原因となります。

イラストはオプション(別売)を増設した場合の接続例

- OPTION 1: デジタル入力ボード [DAC-20]
- OPTION 2: アナログ・ディスク入力ボード [AD-20]



4. 各部の動作説明

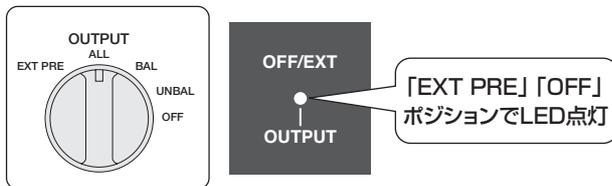
1 POWER — 電源スイッチ

押すと電源が入り、再び押すと切れます。電源を入れてから回路が安定するまで約3秒間は、ミュート回路が作動しますので出力はありません。

- ※ 電源スイッチをOFFにすると、OUTPUTスイッチを「EXT PRE」ポジションにしたときと同様に、接続した外部プリアンプの出力を選択します。
- ※ 電源スイッチのOFF直後、10秒以内に再びONしない。ノイズ発生などの原因となることがあります。

2 OUTPUT — 出力切替スイッチ

3系統の出力端子を切り替えるスイッチです。



- EXT PRE** : 接続した外部プリアンプの出力に切り替わります。(12ページ参照)
- ALL** : 全てのOUTPUTS端子から出力されます。
- BAL** : バランスOUTPUTS端子を選択します。
- UNBAL** : アンバランスOUTPUTS端子(ピンジャック)を選択します。
- OFF** : 3系統の出力信号が全て切れます。

- 通常は“ALL”のポジションでご使用ください。
 - “EXT PRE”と“OFF”ポジションのときはディスプレイ部の“OFF/EXT”のLEDが点灯します。
- また、ヘッドフォン使用時にも3系統の出力信号が全て切れ、“OFF/EXT”のLEDが点灯します。
- (ヘッドフォン出力の設定変更可能：13ページ参照)

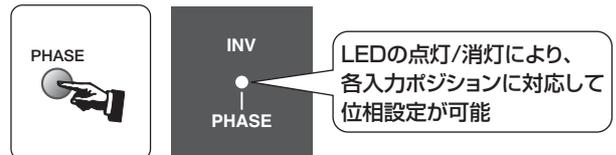
3 TONE CONTROL, BASS, TREBLE — トーンコントロール

※詳細は14, 15ページ参照

TONE CONTROLボタンを押してON(LED点灯)にすると、BASS(低音)/TREBLE(高音)のコントロールが有効になります。

4 PHASE — 出力位相切替ボタン

通常出力信号は入力信号と同相ですが、このボタンを押すと、出力信号は入力信号と逆相になります。



- 押して“INVERTED”(逆相)
ディスプレイ部のOUTPUT : 「INV」LED点灯
- 再び押すと同相 : 「INV」LED消灯

INVERTED(逆相)時: バランス出力コネクター2番と3番の極性は、次のように変わります。接続する入力や出力機器の極性が異なる場合は、このボタンで極性を合わせることができます。

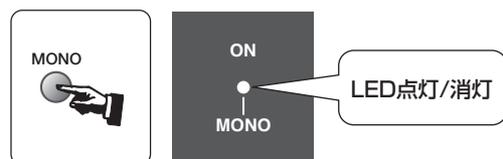
- ① : グラウンド
- ② : インバート(-) ⇔ ノン・インバート(+)
- ③ : ノン・インバート(+) ⇔ インバート(-)

メモ

入力セレクター、レコーダーなど全ての入力ポジションに対して、それぞれ位相設定が可能です。その設定は入力毎に記憶(LEDの点灯/消灯で確認)することができます。

5 MONO — モノ/ステレオ切替ボタン

モノフォニックとステレオの切替ボタンです。モノフォニックでは、左右チャンネルの信号がミックスされ、スピーカーの中央で聴くと音像はセンターに定位します。



- 押して“MONO”(モノフォニック) : 「MONO」LED点灯
- 再び押すとステレオ再生 : 「MONO」LED消灯

注意

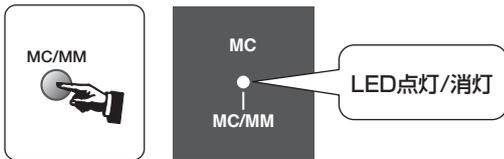
⑦ RECORDERスイッチをONに切り替えると、モノフォニックは自動的に解除されます。モノフォニックで録音するには、RECORDERスイッチをONに切り替えたあと、改めてMONOボタンを押して“ON”にしてください。

6 MC/MM — MC/MM切替ボタン

この機能は、『アナログ・ディスク入力ボードAD-20』が増設されているときのみ有効です。

※AD-20の詳細は19, 20ページ参照。

AD-20でイコライザー・アンプ(アナログ・ディスクを再生するときに必要なアンプ回路)のゲイン(MC/MM)を切り替えます。



- 押してMC : 「MC」LED点灯
- 再び押してMM : 「MC」LED消灯

MC

出力電圧が低いMC(ムービング・コイル)型カートリッジを使用する場合のポジション。入力インピーダンスはボード上にあるディップ・スイッチで設定してください。

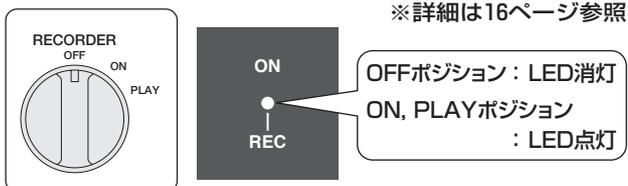
MM

出力電圧が高いMM(ムービング・マグネット)型カートリッジを使用する場合のポジション。入力インピーダンスは47kΩ固定です。

注意

- 13入力セクターでAD-20を増設したポジションを選択した場合に、MC/MMの切り替えが有効となります。
- AD-20のボード上にMC/MM切替用ディップ・スイッチがありますが、本体6MC/MM切替ボタンが優先し、ボード上での設定は無視されます。
- 「MC LOAD」とFILTER設定は、ボード上でのみの設定となり、本体での切り替えはできません。(19ページ参照)
- 本機は『アナログ・ディスク入力ボードAD-9またはAD-10』も使用できますが、この場合のMC/MM切り替えはボード上でのみの設定となり、本体のMC/MM切替機能は動作しません。

7 RECORDER — レコーダー・スイッチ



※詳細は16ページ参照

OFFポジション : LED消灯
ON, PLAYポジション : LED点灯

OFF

通常(録音しない場合)はこのポジションにします。入力セクターで選択するプログラムソースを演奏しますが、レコーダー録音“REC”端子に信号は出力されません。

ON

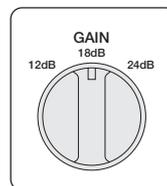
レコーダーを使用して録音する場合のポジションです。入力セクターで選択されたプログラムソースを演奏すると同時に、レコーダー録音用“REC”端子に信号が出力され、録音が可能になります。

PLAY

レコーダー出力を再生する場合のポジションです。

8 GAIN — ゲイン切替スイッチ

ラインアンプの増幅度を12dB, 18dB, 24dBの中から選択します。



最適な増幅度(ゲイン)に設定し、入力ソースやパワーアンプのゲイン、スピーカーの能率などを含めた総合的な釣り合いを整えてボリュームの使用位置などを使いやすくします。

- 通常は18dBで使用します。

9 BALANCE — バランス調整

左右の音量バランスを調整することができます。

- 通常センター(0)で使用します。

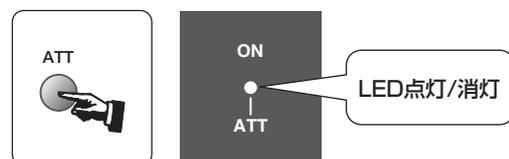
10 COMP — コンペンセーター(聴感補正)ボタン

※詳細は15ページ参照

小音量で聴く場合、エネルギー・バランスを補正することができます。

11 ATT — アッテネーター

ATTボタンを押すと、瞬時に現在の音量から「 $\frac{1}{10}$ の音量」に下げることができます。(減衰量: -20dB)



- 押して“ON” : 『ATT』LED点灯
- 再び押すと“OFF” : 『ATT』LED消灯

12 PHONES — ヘッドフォン出力ジャック

※詳細は13ページ参照

ヘッドフォンで演奏を楽しむ場合は、ヘッドフォン・プラグをこのジャックに差し込んでください。

13 INPUT SELECTOR — 入力セレクター

リアパネルの各入力端子を選択し、LEDの点灯で表示します。リモート・コマンダーRC-200でも同様に切り替えることができます。

TUNER, CD, LINE 1 ~ LINE 3

アンバランス(プラグ付きオーディオ・ケーブル)で、リアパネルの各入力端子へ接続した機器を選択します。

CD-BAL, LINE-BAL

リアパネルの入力端子へ、バランス用オーディオ・ケーブルで入力した機器を選択します。

OPTION 1, OPTION 2

リアパネルのオプション・スロットに増設した入力端子を選択します。

- オプション・ボードは18~21ページ参照

※「INPUT SELECTOR」ノブは指標がなく、エンドレス(ストッパーのない)のロータリースイッチを使用しています。

14 ディスプレイ部

※詳細は5ページ参照

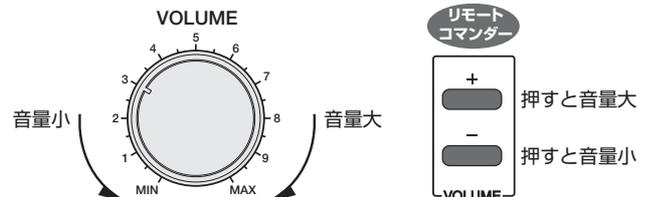
各スイッチやボタンの動作ポジションなどを、ディスプレイ部のLED点灯により表示します。

15 リモート・センサー

本機に付属しているリモート・コマンダーRC-200の赤外線信号を受信する窓です。リモート・コマンダーを使用するときは、発光部をここに向けてください。

16 VOLUME — ボリューム調整

右へ回すと音量が大きくなり、左に回すと小さくなります。リモート・コマンダーRC-200でも同様に動作させることができます。



17 CD, TUNER, LINE 1~LINE 3 — ライン入力端子

アンバランス方式の一般的なハイレベル入力端子です。

*本機の最大入力電圧は6Vです。

18 CD/LINE INPUTS(BALANCED) — バランス入力端子

外来誘導雑音の排除能力に優れた、バランス伝送用入力端子です。CDプレーヤーやチューナーなどのバランス出力を持つ機器を接続してください。

ピンの極性は、



- ①: グラウンド
- ②: インバート(-)
- ③: ノン・インバート(+)

となっていますので、ソース側の機器との極性を合わせて正しく接続してください。

*本機の最大入力電圧は6Vです。

*バランス用オーディオ・ケーブルは当社で別売しています。

19 RECORDER — レコーダー再生/録音端子

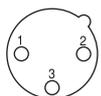
※詳細は8, 16ページ参照

レコーダーを接続し、録音・再生が可能です。

20 OUTPUTS 1, 2 — バランス出力端子

外来誘導雑音の排除能力に優れた、バランス伝送用出力端子です。パワーアンプが、バランス入力コネクタを装備している場合には、良質なオーディオ信号の伝送が可能です。

ピンの極性は、



- ① : グラウンド
- ② : インバート(-)
- ③ : ノンインバート(+)

となっていますので、パワーアンプ側の極性を確認して接続してください。

- 入力ソース側またはパワーアンプ側の極性が本機と逆の場合は、**4** PHASEボタンで合わせます。
- バランス用オーディオ・ケーブルは当社で別売しています。

21 OUTPUTS 1, 2 — 出力端子(アンバランス)

通常のピンプラグ付オーディオ・ケーブルで、パワーアンプの入力端子と接続します。

22 EXT PRE INPUTS — 外部プリアンプ入力端子(バランス)

※詳細は12ページ参照

外部のプリアンプ出力を、バランス接続で入力します。

- OUTPUTスイッチを「EXT PRE」ポジションにすると、この端子の入力信号は**20**OUTPUTS(バランス出力端子)に出力されます。

23 EXT PRE INPUTS — 外部プリアンプ入力端子(アンバランス)

※詳細は12ページ参照

外部のプリアンプ出力を、アンバランス接続で入力します。

- OUTPUTスイッチを「EXT PRE」ポジションにすると、この端子の入力信号は**21**OUTPUTS(アンバランス出力端子)に出力されます。

24 SWITCHED — 電源スイッチと連動するACコンセント

本機と接続する機器の電源をこのコンセントから取ると、電源スイッチをON/OFFすることにより、他の機器の電源も同時にON/OFFすることができます。

⚠注意

接続する機器の消費電力の合計が400Wを超えないようにする。

25 AC電源コネクタ

付属の電源コードを接続します。

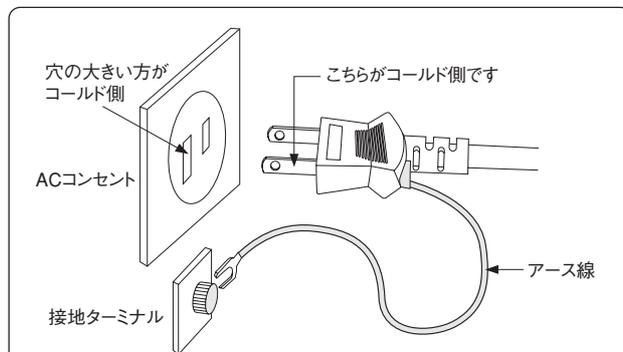
⚠警告

電源は必ずAC100V家庭用コンセントを使用する。

■電源コードに付いているアース線の接続

付属の電源コードには、プラグ側に接地用アース線が付いています。感電防止のため、このアース線を接地用ターミナルに接続すると、より一層安全になります。

接地ターミナルの工事は、電気工事店にご相談ください。



⚠警告

アース線の接地用ターミナルへの接続は、必ずプラグをコンセントにつなぐ前に行ってください。また、アース線を外すときは必ずプラグをコンセントから抜いてから行ってください。

■電源コードの極性表示

本機は、トランスの巻き方向、部品の配線など極性を管理して、電源プラグのアース線が出ている方がコールド側になっています。機器の接続を統一したい場合は参考にしてください。

注意

※室内コンセントの極性は一般に、向かって左側(穴が右に比べて大きい)がコールド側です。

※大地に対する電位は屋内配線の状況によって変化します。このためチェッカーなどを使用して測定した場合、電位が逆表示することがあります。

5. ご使用方法



注意

各機器を接続する場合には、必ずC-2110や各機器の電源を切る。

使用される前にノブやスイッチ、ボタンの位置を確認します

- VOLUME : MIN(下げた状態)
- OUTPUT : ALL
- RECORDER : OFF(レコーダーを使用しない時)
- GAIN : 18dB
- BALANCE : センター
- PHASE, MONO, MC/MM, COMP, ATT, TONE] : 電源スイッチON後、LED点灯/消灯で設定状態を確認

CDプレーヤーの演奏

※接続図は6ページ参照

CDプレーヤーのアナログ出力をリアパネルのCD入力端子(またはTUNER, LINE端子)へ接続します。また、CDプレーヤーがバランス出力を装備している場合は、バランス用“CD/LINE INPUTS”端子も使用することができます。

演奏の手順

- ① ボリュームが下がっていることを確認し、本機と共にCDプレーヤーやパワーアンプの電源を“ON”にします。
- ② 入力セクターでCDポジション(または入力したポジション)を選択します。
- ③ CDプレーヤーを演奏状態にして、ボリュームを上げると演奏が聴こえてきます。ボリュームを調整して再生状態を確認してください。
- ④ MONOボタンをON(モノフォニック状態)にし、音像が中央に定位することを確認したり、コンペンセーターやアッテネーターなどの効き具合をお試しください。

チューナーで放送を聴く場合

※接続図は6ページ参照

チューナーの出カケーブルをリアパネルのTUNER入力端子(またはCD, LINE端子)へ接続します。また、チューナーがバランス出力を装備している場合は、バランス用“CD/LINE INPUTS”端子も使用することができます。

CD再生と同じ要領で入力セクターを合わせ、他のスイッチ類のポジションを確認してください。チューナーが放送局に同調していれば、ボリュームを上げると放送が聴こえます。

メモ

C-2110の電源OFF時にタイマーでチューナー録音する場合は、16ページを参照してください。

別系統のプリアンプやAVアンプでの演奏

別系統のプリアンプやAVアンプで演奏を楽しむ場合、その機器の出力をC-2110の『EXT PRE INPUTS』端子へ接続しておけば、パワーアンプへの接続を変えずに演奏機器を切り替えることができます。操作は、**[2]** OUTPUTスイッチを『EXT PRE』ポジションにします。

メモ : C-2110の電源をOFFにした場合には、OUTPUTスイッチのポジションに関係なく「EXT PRE」と同じ接続・動作になります。

入・出力の接続

⚠ 注意 : 接続するときは必ず各機器の電源を切る。

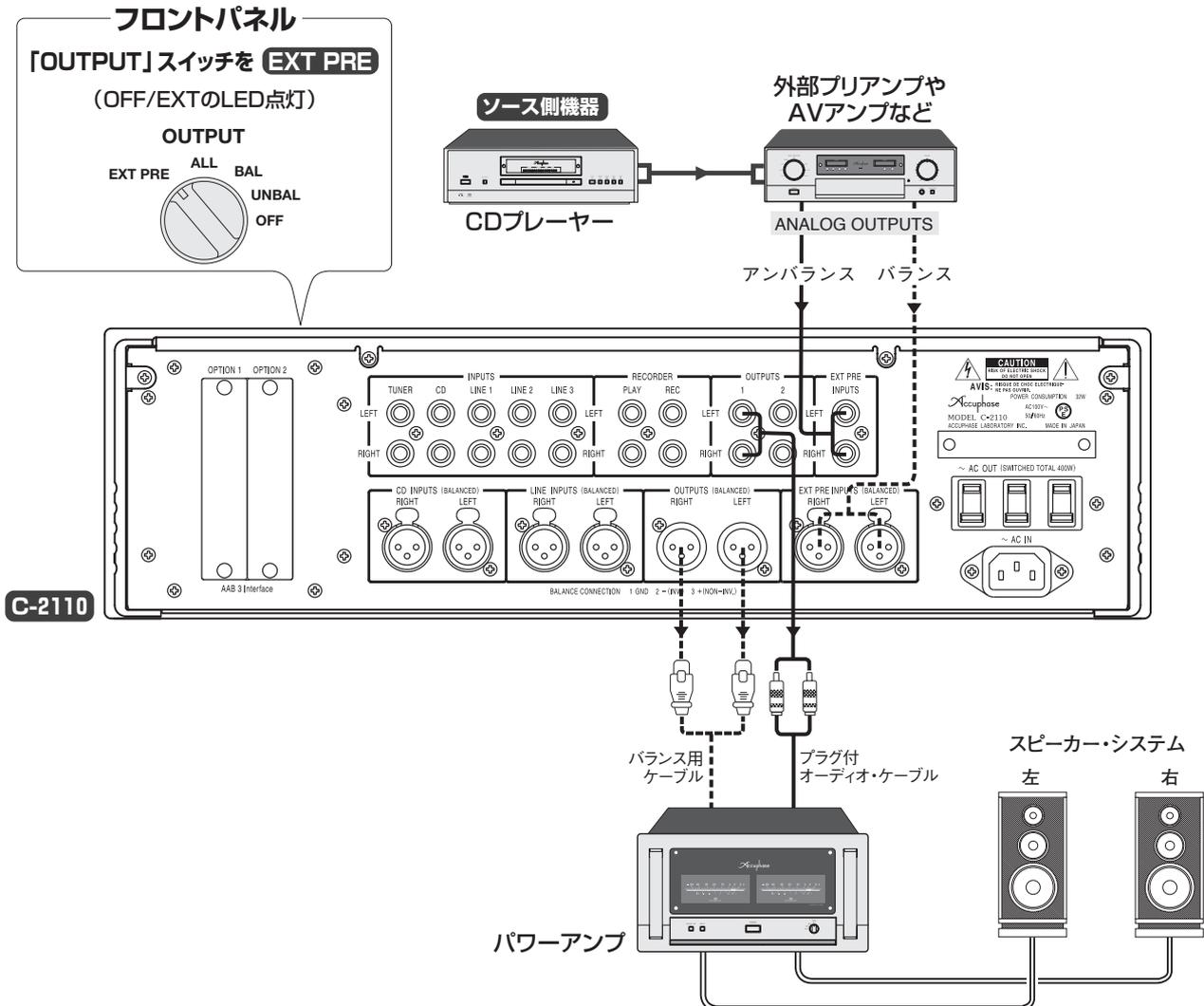
アンバランス接続の場合

[23] 『EXT PRE INPUTS』に入力 ⇨ **[21]** OUTPUTS 1, 2から出力

バランス接続の場合

[22] 『EXT PRE INPUTS』(BALANCED)に入力 ⇨ **[20]** OUTPUTS 1, 2(BALANCED)から出力

- ※ 同一機器同士で、バランス用とアンバランス用の両ケーブルを同時に接続して使用しないでください。アースがループになって、ノイズを発生させる原因となります。
- ※ 『EXT PRE』の場合、全てのコントロールは接続した別のプリアンプで行います。但しC-2110のヘッドフォンには、C-2110の入力セレクターやRECORDERスイッチの「PLAY」で選択した信号が出力されます。



ヘッドフォンの使用方法

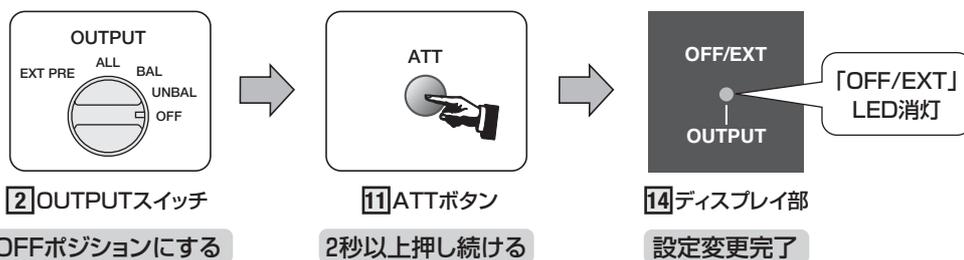
ヘッドフォンのプラグを**12**PHONES出力ジャックに差し込んでください。

- ヘッドフォンを差し込むと、OUTPUTS出力が切れ、**14**ディスプレイ部の「OFF/EXT」LEDが点灯します。
- ヘッドフォンのレベルは本機のボリュームでコントロールしてください。
- インピーダンス8~100Ωのヘッドフォンをご使用ください。
- **2**OUTPUTスイッチで「EXT PRE」を選択した場合でも、本機でインプット・セレクターやRECORDERスイッチの「PLAY」で選択された信号がヘッドフォンから出力されます。

⚠注意 演奏中ヘッドフォンのプラグを抜くと、スピーカーから音が出ます。急に大きな音が出ないように、音量に注意してください。

ヘッドフォンを差し込んでも、OUTPUTS出力が切れないように設定変更することができます。

設定が変更されると、**14**ディスプレイ部の「OFF/EXT」LEDが消灯し、変更されたことを示します。OUTPUTスイッチを回すと、LEDの表示は通常動作に戻ります。



設定変更

- 1** **2**OUTPUTスイッチをOFFポジションにする。
- 2** **11**ATTボタンを2秒以上押し続ける。

- * OUTPUTスイッチがOFF以外の場合、ヘッドフォンを差し込んでも出力は切れません。したがって、ディスプレイ部の「OFF/EXT」LEDはヘッドフォン使用時でも点灯しません。
- * ヘッドフォンだけで聴く場合は、OUTPUTスイッチをOFFにしてください。「OFF/EXT」のLEDが点灯します。

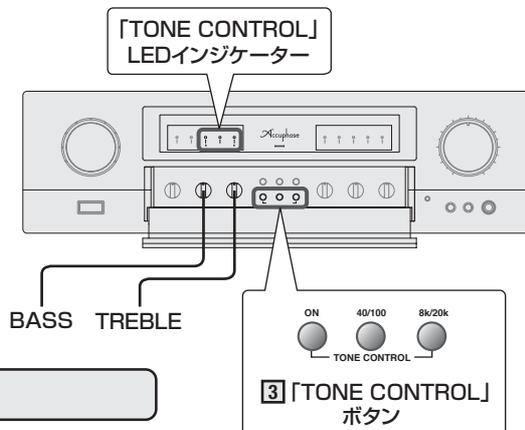
初期(工場出荷)状態に戻す

- 1** **2**OUTPUTスイッチをOFFポジションにする。
- 2** **11**ATTボタンを2秒以上押し続ける。

- * OUTPUTスイッチがOFF以外の場合、ヘッドフォンを差し込むとOUTPUTS出力が切れ、「OFF/EXT」のLEDが点灯します。

トーンコントロールの使用

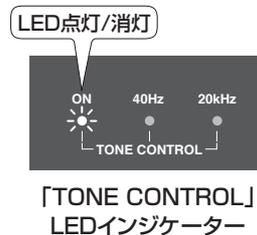
3 「TONE CONTROL」ボタンを押してON(LED点灯)にすると、トーンコントロール回路が入り、BASS(低音域)/TREBLE(高音域)のコントロールが可能になります。



トーンコントロールON/OFFボタン

- 押して“ON” : 「ON」LED点灯
- 再び押すと“OFF” : 「ON」LED消灯

- ※ “ON”でBASS(低音)/TREBLE(高音)コントロールが有効です。
- ※ “OFF”の場合BASS/TREBLEツマミの位置に関係なく、フラットな特性が得られます。
- ※ “OFF”の場合「TONE CONTROL」LEDはすべて消灯します。



「TONE CONTROL」ON(LED点灯)時有効

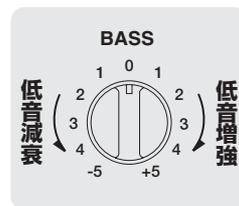
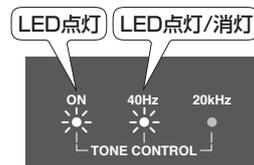
BASS — 低音コントロール

■ 40/100 : 低音部周波数切替ボタン

- 押して“40Hz” : 「40Hz」LED点灯
- 再び押すと“100Hz” : 「40Hz」LED消灯

■ 低音部(40Hzまたは100Hz)の周波数特性を連続可変でコントロールします。

- センターから左に回して低音減衰 : 0~-8dB
- センターから右に回して低音増強 : 0~+8dB



TREBLE — 高音コントロール

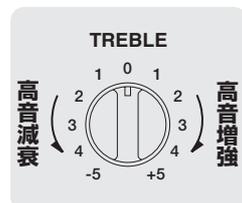
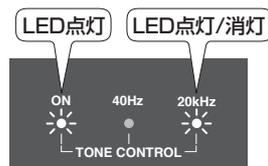
■ 8k/20k : 高音部周波数切替ボタン

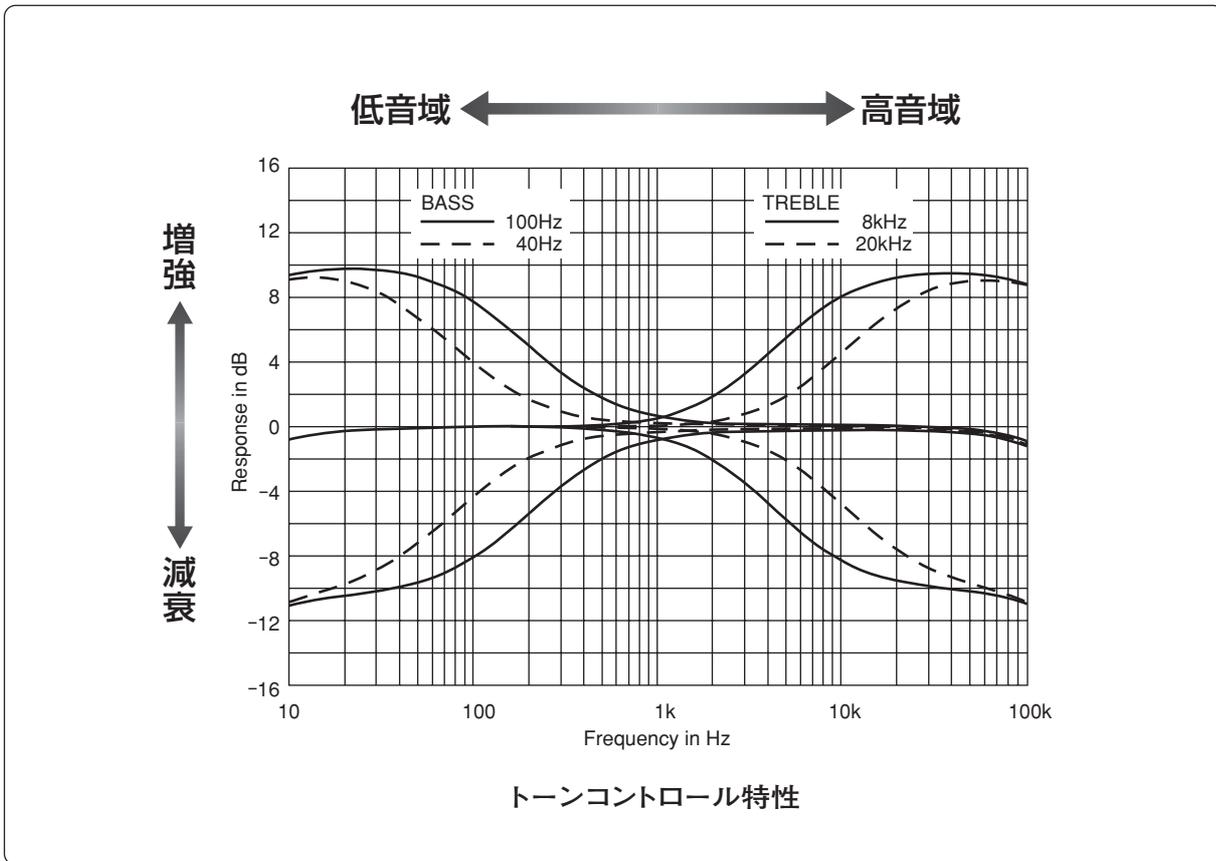
TREBLE(高音コントロール)の周波数を切り替えます。

- 押して“20kHz” : 「20kHz」LED点灯
- 再び押すと“8kHz” : 「20kHz」LED消灯

■ 高音部(8kHzまたは20kHz)の周波数特性を連続可変でコントロールします。

- センターから左に回して高音減衰 : 0~-8dB
- センターから右に回して高音増強 : 0~+8dB





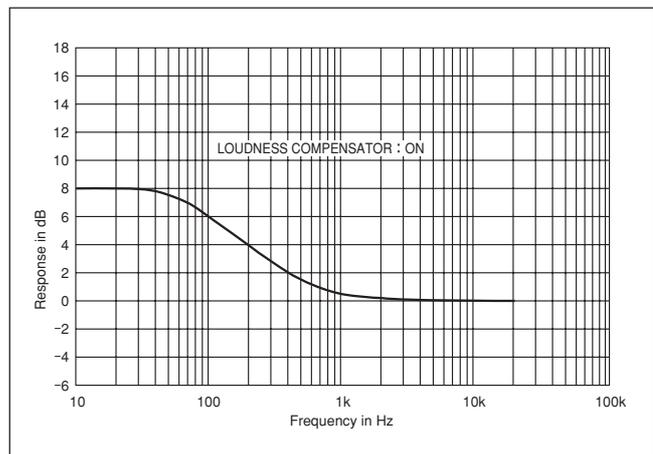
コンペンセーターの使用

10 COMPボタンは、小音量で聴く場合の聴感上のエネルギー・バランスを調整するボタンです。人間の聴感特性はボリュームを下げたときには、そのときの音量によって低音・高音が不足してきます。この量感を補うために、このボタンが大変有効です。本機では、低音100Hzを6dB上昇させることができる。

10 COMPボタン

- 押して“ON” : 「COMP」LED点灯
- 再び押すと“OFF” : 「COMP」LED消灯

LED点灯/消灯



レコーダーで録音・再生をする場合

接 続

※接続図は6ページ参照

リアパネルのRECORDER端子にレコーダーを接続します。

REC 端子 ⇔ レコーダーのLINE IN端子
PLAY 端子 ⇔ レコーダーのLINE OUT端子

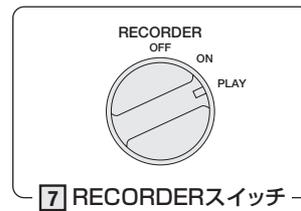
※レコーダーを再生だけに使用する場合、PLAY端子の代わりに各ライン入力端子を使うことができます。

操 作

※**7** RECORDERスイッチ各ポジションの説明は、8ページ参照。OFFポジション以外は録音可能となり、「REC」LEDが点灯します。

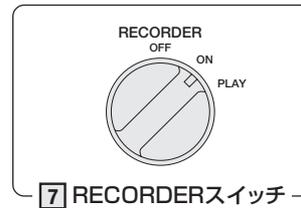
再生: プレイバック

7 RECORDERスイッチをPLAYポジションにして、レコーダーを再生状態にすれば再生音を聴くことができます。



録音: レコーディング

- ① 録音するプログラム・ソースを入力セクターで選択し、スピーカーから音を出して確認します。
- ② **7** RECORDERスイッチをONポジション(「REC」LED点灯)にします。入力セクターで選択した信号がREC端子から出力されます。
- ③ レコーダーの録音をスタートすれば、スピーカーから出ている音が録音されます。
- ④ 本機のボリューム、アッテネーター、コンペンセーター、バランスは、録音される音には関係しませんので音量を下げて録音することができます。録音レベルは、レコーダー側で調整してください。
なお、MONOボタンがON(「MONO」LED点灯)になっていると、録音出力もモノフォニックになってしまいますから注意してください。
- ⑤ **7** RECORDERスイッチをPLAYポジションにすると、録音を続けながら、録音されたテープのモニターができます。(3ヘッド・テープレコーダーの場合)。



注意

7 RECORDERスイッチをONにするとモノフォニックは自動的に解除されます。モノフォニックで録音するには、ONに切り替えたあと改めてMONOボタンを押して“ON”にしてください。

電源 OFF時のチューナー録音

電源OFFの場合には、リアパネルのTUNER端子に接続されている信号が、「RECORDER REC」端子に出力されます。入力セクターやRECORDERスイッチに関係ありませんから、チューナーなどをタイマーで留守録音するときには、本機の電源を入れなくても録音が可能になります。

注意

「電源OFF時」での録音中に、C-2110の電源を入れしないでください。あらかじめ入力ポジションを「TUNER」にしていなかった場合、録音中に電源を入れると、録音が途切れてしまいます。録音中に電源を入れるときは十分注意してください。

6. リモート・コントロール

使用法

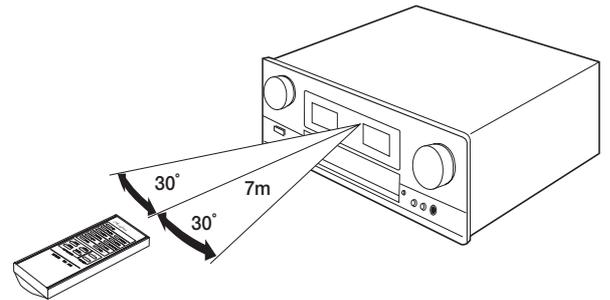
リモート・コマンダーの発光部を本体の⑮リモート・センサーに向けて、図の範囲内でお使いください。

電池について

■電池の交換時期

電池は普通に使って約8カ月は動作しますが、操作距離が短くなってきたら交換時期です。完全に消耗しますと、ボタンを押してもコントロールできなくなります。

使用する電池は、単4形を2個、両方とも新しい電池に交換してください。



警告

乾電池は充電しない。電池の破裂や、液漏れにより、火災やけがの原因となります。

注意

■電池について

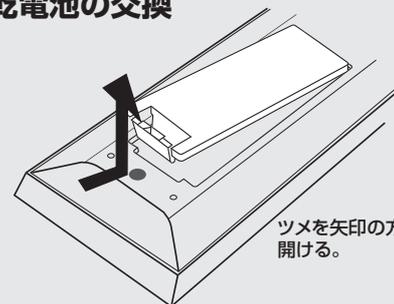
- 乾電池は正しく使わないと、液漏れや破裂などの危険があります。
- 電池の向きはコマンダーのケースに示されている通り、⊕（プラス）、⊖（マイナス）を正しく合わせる。
- 新しい電池と、1度使用したものを混ぜない。
- 種類の違う乾電池を混ぜて使用しない。同じ形状でも、性能の異なるものがあります。
- 長時間にわたりコマンダーを使わないときは、電池を抜いておく。
- 万一、液漏れを起こしたときは、当社品質保証部にご連絡ください。漏れた液体が身体についたときは、水でよく洗い流してください。

■テレビの近くに設置した場合、リモコンの動作が不安定になることがあります。故障ではありません。置く向きを変えたり、お互いに離してお使いください。

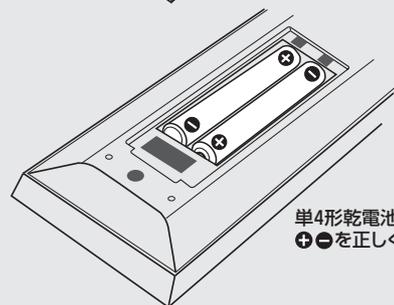
■リモコンを落としたり、内部に液体をこぼしたりしないようにしてください。

■直射日光の当たる所や暖房器具のそばなど、温度や湿度の高い場所に置かないようにしてください。

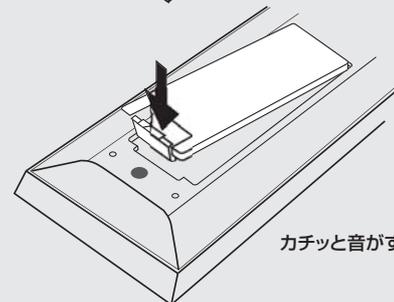
乾電池の交換



ツメを矢印の方へ押し、蓋を開ける。



単4形乾電池2個、⊕⊖を正しく入れる。



カチッと音がするまで閉める。

7. オプション・ボード

C-2110には、デジタル入力ボードDAC-20、アナログ・ディスク入力ボードAD-20、ライン入力ボードLINE-10の3種類が用意されています。用途に応じて、リアパネルのオプション用スロット(OPTION 1または2)に増設してください。

- オプション・ボードを抜き差しするときは、必ず本機の電源を切ってください。
- 空いているスロットに、任意のオプション・ボードを増設することができます。
- アナログ・ディスク入力ボードAD-9/AD-10、ライン入力ボードLINE-9も使用できます。

オプション・ボードの使用方法

CDなどをデジタル入力で演奏

オプションの、デジタル入力ボード：DAC-20を増設します。

※ CDプレーヤー、MDなどのデジタル出力(サンプリング周波数96kHzまでの音楽信号)を、同軸または光ファイバーで接続して演奏します。

※ 接続は6ページ参照。

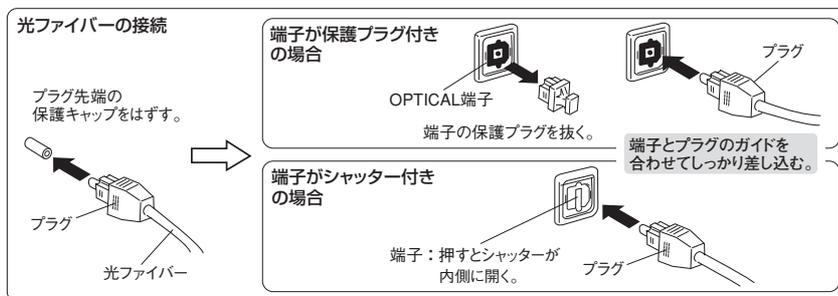
接続ケーブル

COAXIAL 端子

ピンプラグ付同軸デジタル・ケーブル(75Ω)で接続してください。

OPTICAL 端子

JEITA規格の光ファイバー接続用端子です。



演奏の手順

- ① ボリュームが下がっていることを確認し、本機や関連機器の電源スイッチを入れます。入力セレクターで、DAC-20を増設したスロット(OPTION 1または2)を選択します。
- ② 入力機器を演奏状態にして、ボリュームを上げると演奏が聴こえてきます。ボリュームを操作して再生状態を確認してください。

注意

- 入力機器のCOAXIAL(同軸)出力端子とアナログ出力端子(バランス/アンバランス共)から、本機へ同時に入力しない。同一機種同士で同時に接続して使用すると、アースがループになって、ハムやノイズが発生する原因となります。
- 入力機器から本機(DAC-20)の「COAXIALとOPTICALの両端子」に入力した場合は、どちらか一方の入力信号を選択します。入力の選択は、演奏しない入力ケーブルを外すか、演奏しない入力機器の電源を切ってください。

アナログ・ディスク(AD)の演奏

- オプションの、アナログ・ディスク入力ボードAD-20を増設します。
 - レコード・プレーヤーの出力ケーブルを入力端子へ正しく接続してください。プレーヤーの出力ケーブルと一緒に出てくるアース線はGND(グラウンド)端子へ接続します。
- ※接続は6ページ参照

注意

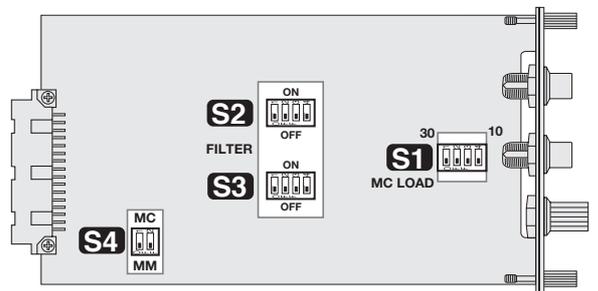
- オプション・ボードを抜き差しするときは、必ず本機の電源を切る。
- AD-10を増設する場合、設定内容は同じですが、ディップ・スイッチの数や位置、また設定方法が異なりますので、必ずAD-10の取扱説明書を参照してください。

挿入前に、ボード上にあるディップ・スイッチ(S1～S3)の設定をします。

注意: スwitchの各キーは、先の細いもので完全にセットしてください。
指定以外の設定では所定の特性が得られません。

- ① **S1 : MC LOAD**
MCの場合入、カインピーダンスの選択: 10/30/100Ω
- ② **S2, S3 : FILTER**
サブソニック・フィルターのON/OFF
- ③ **S4 : MC/MMの設定**

メモ C-2110は、パネル面MC/MMボタンの切り替えが優先されるため、ボード上のS4の設定は必要ありません。



AD-20 部品面 (S1～S4のスイッチ位置を示す。)

① S1 : MC LOAD—MCの入カインピーダンスの選択……………ボード上で設定

- | | | | |
|------|--|---------------------------------|--|
| 100Ω | | 1, 2, 3, 4 : OFF
出荷位置 | 一般的には、MCカートリッジの内部インピーダンスが
20Ω以上 : 100Ωに設定
20Ω以下 : 30Ωまたは10Ωに設定 |
| 30Ω | | 1, 2 : ON
3, 4 : OFF | ● カートリッジの内部インピーダンスの2～3倍以上を目安にしますが、実際に試聴して良い音質の得られるインピーダンスを決定してください。 |
| 10Ω | | 1, 2 : OFF
3, 4 : ON | ● S1は左右チャンネル同時に設定されます。 |

② S2, S3 : FILTER—サブソニック・フィルターのON/OFF……………ボード上で設定

- | | | | |
|-----|--|---------------------------------|--|
| OFF | | 1, 2, 3, 4 : OFF
出荷位置 | このフィルターは、超低域25Hz以下を-12dB/octaveという急峻な特性でカットし、超低域ノイズが可聴帯域内へ悪影響をおよぼすことを防ぎます。レコードに大きな反りがあったり、超低域の振動によりウーファーがゆれたりするときに変有効です。 |
| ON | | 1, 2, 3, 4 : ON | ● S2, S3の両スイッチとも必ず同じ設定にしてください。 |

③ S4 : MC/MM—イコライザーゲインの切替…パネル面⑥ MC/MMボタンの切り替えが優先

- | | | | |
|----|--|---------------------------|--|
| MM | | 1, 2 : OFF
出荷位置 | MM: 高出力電圧のMM型カートリッジ
ゲイン : 36dB
入カインピーダンス : 47kΩ |
| MC | | 1, 2 : ON | MC: 出力電圧が低いMC型カートリッジ
ゲイン : 62dB
入カインピーダンス : S1で切り替え |

● S4は左右チャンネル同時に設定されます。

メモ AD-20をC-2110に増設して使用する場合には、S4ディップ・スイッチの設定は必要ありません。

演奏の手順

- ① ボリュームが下がっていることを確認し、本機や関連機器の電源スイッチを入れます。入力セクターで、AD-20を増設したスロット(OPTION 1 または 2)を選択します。
- ② レコード針をレコード面におろし、ボリュームを上げると演奏が聴こえてきます。ボリュームを操作して再生状態を確認します。
- ③ レコードに大きな反りがあったり、超低域の振動でスピーカーの振動板がゆれたりする場合は、サブソニック・フィルターをONに設定すると、振動板のゆれを軽減することができます。

オプション・ボードの種類

ライン入力ボード LINE-10

希望小売価格 8,000円(税込 8,400円)



LINE入力と同じ、アンバランス方式の一般的なハイレベル入力端子です。CDプレーヤー、チューナーなどアナログ信号の入力端子として使用します。

デジタル入力ボード DAC-20

希望小売価格 60,000円(税込 63,000円)



同軸、光ファイバーの入力端子を装備しています。デジタル機器のデジタル音楽信号を入力することができます

二つの入力の選択は、いずれかの入力を外すか、または演奏しない機器の電源を切ります。

接続ケーブル

- COAXIAL : 同軸デジタル・ケーブルで接続
- OPTICAL : 光ファイバーで接続

保証特性、適合規格

- 入力フォーマット : JEITA CP-1201/AES-3に準拠
- サンプリング周波数 : 32kHz~96kHz
- デジタル入力 : COAXIAL 0.5Vp-p 75Ω
- OPTICAL -27~-15dBm

アナログ・ディスク入力ボード AD-20

希望小売価格 60,000円(税込 63,000円)



アナログ・レコードを再生します。高性能ハイゲイン・イコライザーを搭載していますから、いろいろな種類のカートリッジに対応することができます。

- このボードを2枚増設すると、2種類のカートリッジに対応することができます。

LEFT, RIGHT-アナログ・プレーヤー入力端子

この入力端子には、アナログディスク・プレーヤーの出力ケーブルを接続します。

GND-アース端子

アナログ・プレーヤーの出力ケーブルと一緒に出ているアース線を接続します。

オプション・ボードの取り付け方法

- ❶ C-2110の電源を切ります。
- ❷ リアパネルのオプション用スロットのサブパネルを外します。(図1 参照)
※外したサブパネルは保管しておいてください。
- ❸ オプション用スロットの上下のガイドレールに沿って、オプション・ボードを挿入(図2 参照)します。コネクタに当って止まったら、少し力を入れてコネクタを完全に差し込みます。(パネル面が同一になればOKです。)
- ❹ 上下のネジ2カ所で確実に固定します。

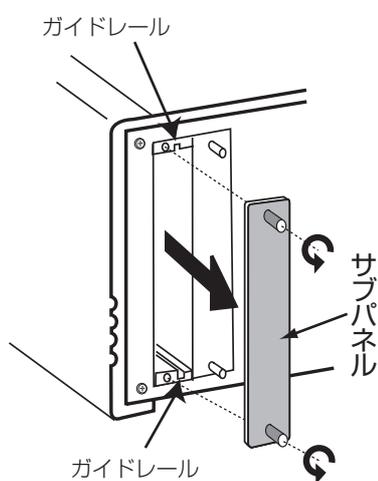


図1

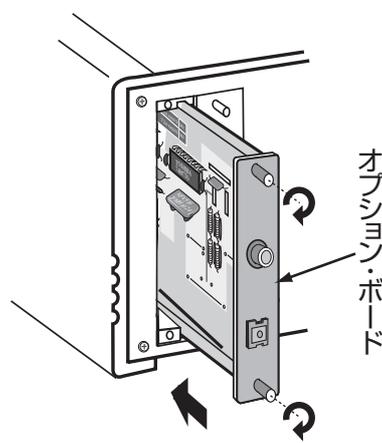


図2

*挿入のイラスト図は、DAC-20を示します。

⚠ 注意

- オプションを抜き差しするときは、必ずC-2110の電源を切る。電源を入れたまま抜き差しすると、故障の原因となります。
- 部品面やハンダ面、コネクタの接点部分を手で触らない。手で触ると接触不良や回路が故障する原因となることがあります。ボードを持つ場合にはプリント板の外周やパネル部を持ってください。
- オプションの取り付けネジは手で完全に締める。締めつけが不完全ですと、端子がグラウンドから浮いて接触不良となり、故障の原因となることがあります。

8. 保証特性

*保証特性はEIA測定法RS-490に準ずる。

周波数特性

BALANCED/UNBALANCED INPUT			
3	～	200,000Hz	+0 -3.0dB
20	～	20,000Hz	+0 -0.2dB

全高調波ひずみ率(全ての入力端子にて)

0.005%

入力感度・入力インピーダンス

入力端子	入力感度		入力インピーダンス
	定格出力時	0.5V 出力時	
BALANCED	252mV	63mV	40kΩ
UNBALANCED	252mV	63mV	20kΩ

定格出力・出力インピーダンス

BALANCED/UNBALANCED OUTPUT :	2V 50Ω
RECORDER REC :	252mV 200Ω

S/N・入力換算雑音

入力端子	入力ショート (A補正)		EIA S/N
	定格出力時S/N	入力換算雑音	
BALANCED	109dB	-121dBV	107dB
UNBALANCED	109dB	-121dBV	107dB

最大出力レベル(ひずみ率 0.002% 20~20,000Hz)

BALANCED/UNBALANCED OUTPUT :	7.0V
RECORDER REC :	6.0V

LINE最大入力電圧

BALANCED/UNBALANCED INPUT :	6.0V
-----------------------------	------

最小負荷インピーダンス

BALANCED/UNBALANCED OUTPUT :	600Ω
RECORDER REC :	10kΩ

クロストーク

-74dB以上(10kHz)

残留ノイズ

0.8μV以下(A-補正)

ゲイン(ゲイン・スイッチ:18dBポジション)

*ゲイン・スイッチ12/18/24dB切替可能

BALANCED/UNBALANCED INPUT →	BALANCED/UNBALANCED OUTPUT :	18dB
BALANCED/UNBALANCED INPUT →	REC OUTPUT :	0dB

トーン・コントロール

低音/高音部それぞれの周波数切替および可変範囲

低音(BASS) :	40/100Hz切替	±8dB
高音(TREBLE) :	8k/20kHz切替	±8dB

コンベンセーター +6dB(100Hz)

アッテネーター -20dB

ヘッドフォン端子 適合インピーダンス 8~100Ω

電源 AC100V 50/60Hz

消費電力 32W

最大外形寸法 幅465mm × 高さ150mm × 奥行405mm

質量 16.8kg

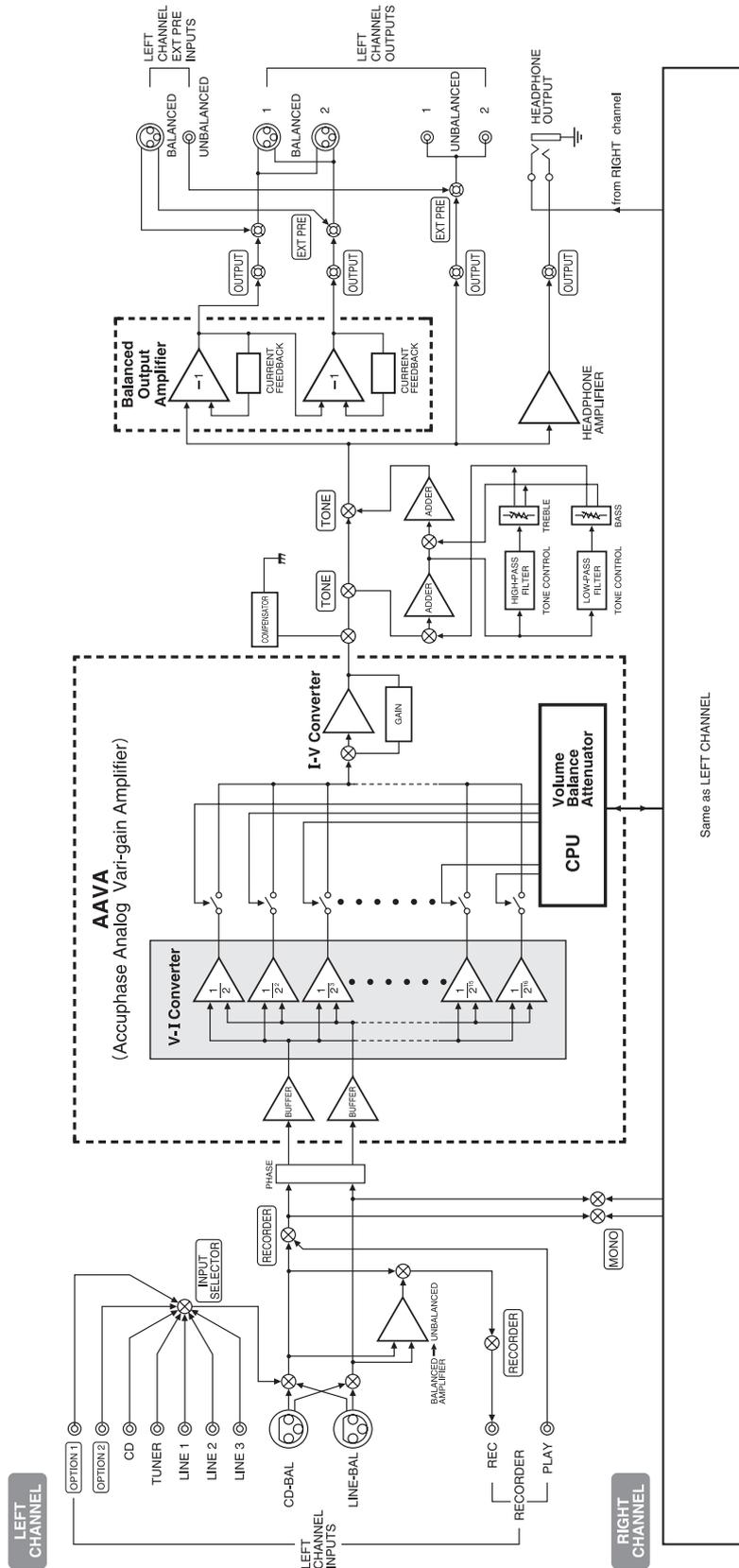
付属リモート・コマンダー RC-200

リモコン方式 :	赤外線パルス方式
電源 :	DC3V・乾電池 単4形2個使用
最大外形寸法 :	56mm × 175mm × 26mm
質量 :	153g(電池含む)

●本機は「JIS C-61000-3-2 適合品」です。

JIS C-61000-3-2 適合品とは、日本工業規格「電磁両立性-第3-2部:限度値-高調波電流発生限度値(1相あたりの入力電流が20A以下の機器)」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

9. ブロック・ダイアグラム



10. 故障かな？と思われるときは

故障かな？と思われるときは、修理を依頼される前に、下記の項目をチェックしてください。
これらの処置をしても直らない場合には、当社製品取扱店または当社品質保証部にご連絡ください。



注意：接続を変える場合には、必ず各機器の電源を切る。

電源が入らない

- 電源コードが抜けていませんか。

音がでない

- ソース側機器やパワーアンプの電源は入っていますか。
- 接続コードは正しく接続されていますか。
- 入力や出力切替スイッチの位置を確認してください。
- ヘッドフォンをジャックに差していませんか。

工場出荷時の設定では、ヘッドフォンを差すとOUTPUTSからの出力は切れます。
注意：ボリュームを絞ってからヘッドフォンを抜いてください。

片側のスピーカーから音が出ない

- 接続コード、スピーカーコードは正しく接続されていますか。
- ソース側機器や本機のスイッチ類は正しい位置ですか。
(バランスの位置など)
- 本機とパワーアンプ間の接続コードを左右入れ替えてください。
┌ 同じ側から音がでない……パワーアンプやスピーカー側に原因が考えられます。
└ 左右逆の状態になる……本機やソース側機器に原因が考えられます。
- 次に本機への入力接続コードを左右入れ替えてください。
┌ 同じ側から音がでない……本機に原因が考えられます。
└ 左右逆の状態になる……接続コードやソース側機器に原因が考えられます。

ボリュームを回すと、スピーカーからノイズが出る場合がある

- 高能率スピーカーをご使用の場合、ボリュームを回転するときやバランス調整を行うときに、『電流スイッチの切替動作音』が聞こえる場合があります。この動作音は異常ではありません。(3ページの[メモ]参照)
また「切替動作音」が気になる場合は、**8**ゲイン切替スイッチ(8ページ参照)を12dBポジションで使用すると有効です。

リモート・コマンダーで操作できない

- 電池は入っていますか。
- 電池の極性は⊕(プラス)と⊖(マイナス)が正しく合っていますか。
- 新しい電池に交換してみましょう。
- 受光部付近に障害物はありませんか。
- テレビの近くに設置していませんか。お互いに離すか、置く向きを変えてみます。

11. アフターサービスについて

保証書

- 保証書は本体付属の「お客様カード」の登録でお送りいたします。
- 「お客様カード」の「お客様情報欄」には付属の「目隠しシール」を貼ってご返送ください。
- 保証書の記載内容により、保証期間はご購入日から3年間です。
- 「お客様カード」の登録をされていない場合、購入日は当社からの出荷日が適用されます。
- 保証書登録は付属の「お客様カード」で行われますが、購入が不適切な場合は登録できないことがあります。
- 保証書がない場合には、保証内修理をお断りする場合があります。よくお読みのうえ、大切に保存してください。
- オプション・ボードやオプション・ユニットには「お客様カード」は付属していません。

保証期間が過ぎてしまったら

- 修理によって性能を維持できる場合には、ご希望により有料で修理いたします。
- 補修部品の保有期間は経済産業省指導により、製造終了後最低8年間となっています。使用期間が相当経過している場合には、当社品質保証部にお問い合わせください。



注意

保証期間以降、長期に渡ってご使用の場合には、当社の定期的な点検をお勧めします。

その他

- 改造されたものは修理ができない場合がありますのでご了承ください。
- 本機の故障に起因する付随的損害(営利的使用に関する諸費用、使用により得られる利益の損失等)については補償できません。
- AC100V以外(海外)では使用できません。
- 保証は日本国内のみ適用されます。
Accuphase warranty is valid only in Japan.

お問い合わせは

- ご質問、ご相談、当社製品取扱店のご案内などは、下記の当社品質保証部へお願いします。

アキュフェーズ株式会社 品質保証部
〒225-8508 横浜市青葉区新石川 2-14-10
TEL 045(901)2771(代表)
FAX045(901)8995

- 修理のご相談は、お買い求めの当社製品取扱店へお願いします。
- 当社のホームページ上でも修理の問い合わせが可能です。
<http://www.accuphase.co.jp/>

修理依頼の場合には

- “故障かな?と思われるときは”をご確認後、直らない場合には、電源プラグをコンセントから抜き、当社製品取扱店に修理を依頼してください。

次の内容をお知らせください。(保証書参照)

- モデル名、シリアル番号
- ご住所、氏名、電話番号
- ご購入日、ご購入店
- 故障状況:できるだけ詳しく

※梱包材は、輸送時に必要となりますので、保管しておいてください。



ACCUPHASE LABORATORY, INC.

アキュフェーズ株式会社

横浜市青葉区新石川2-14-10

〒225-8508 TEL (045) 901-2771(代)

<http://www.accuphase.co.jp/>